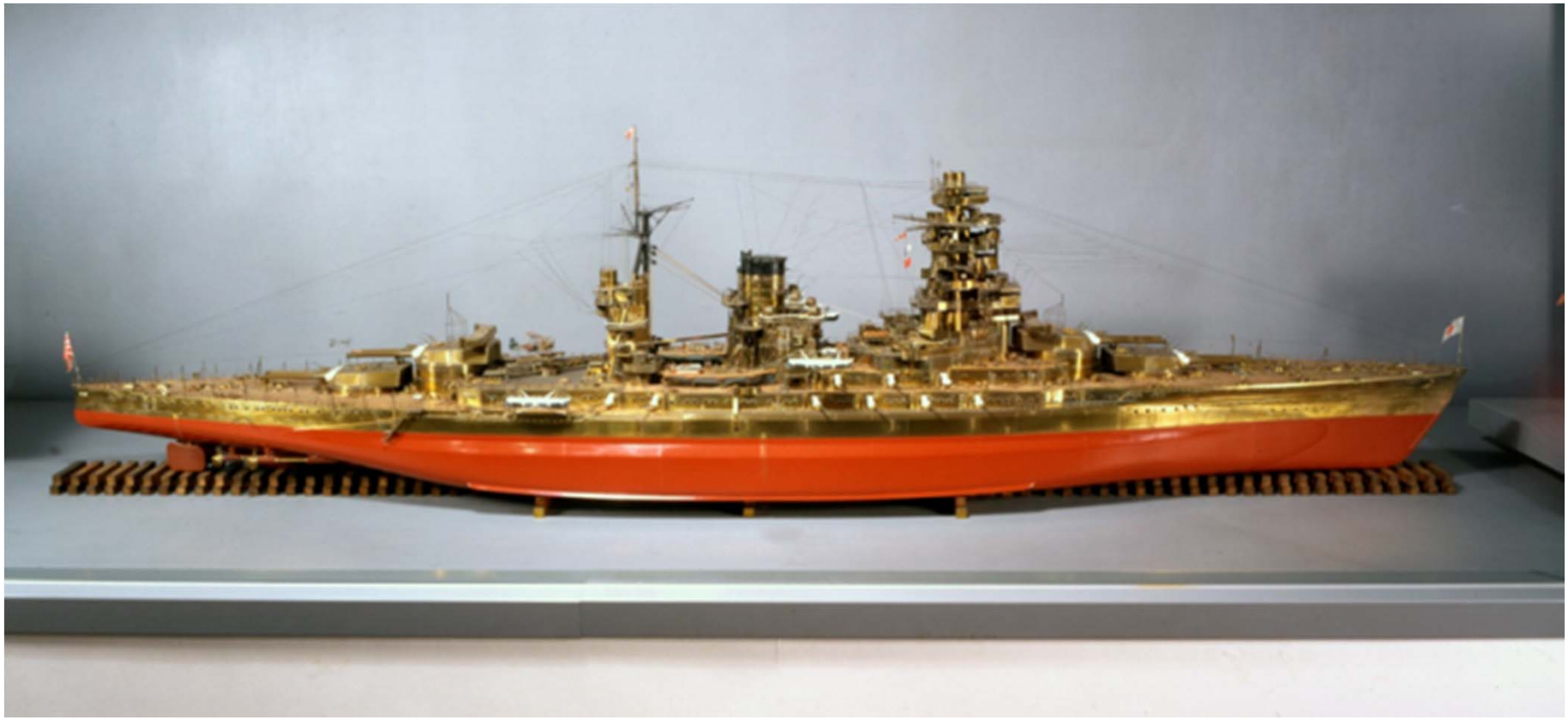
戦艦陸奥主砲（4番砲塔）

80年ぶりの横須賀里帰りに皆様の力を

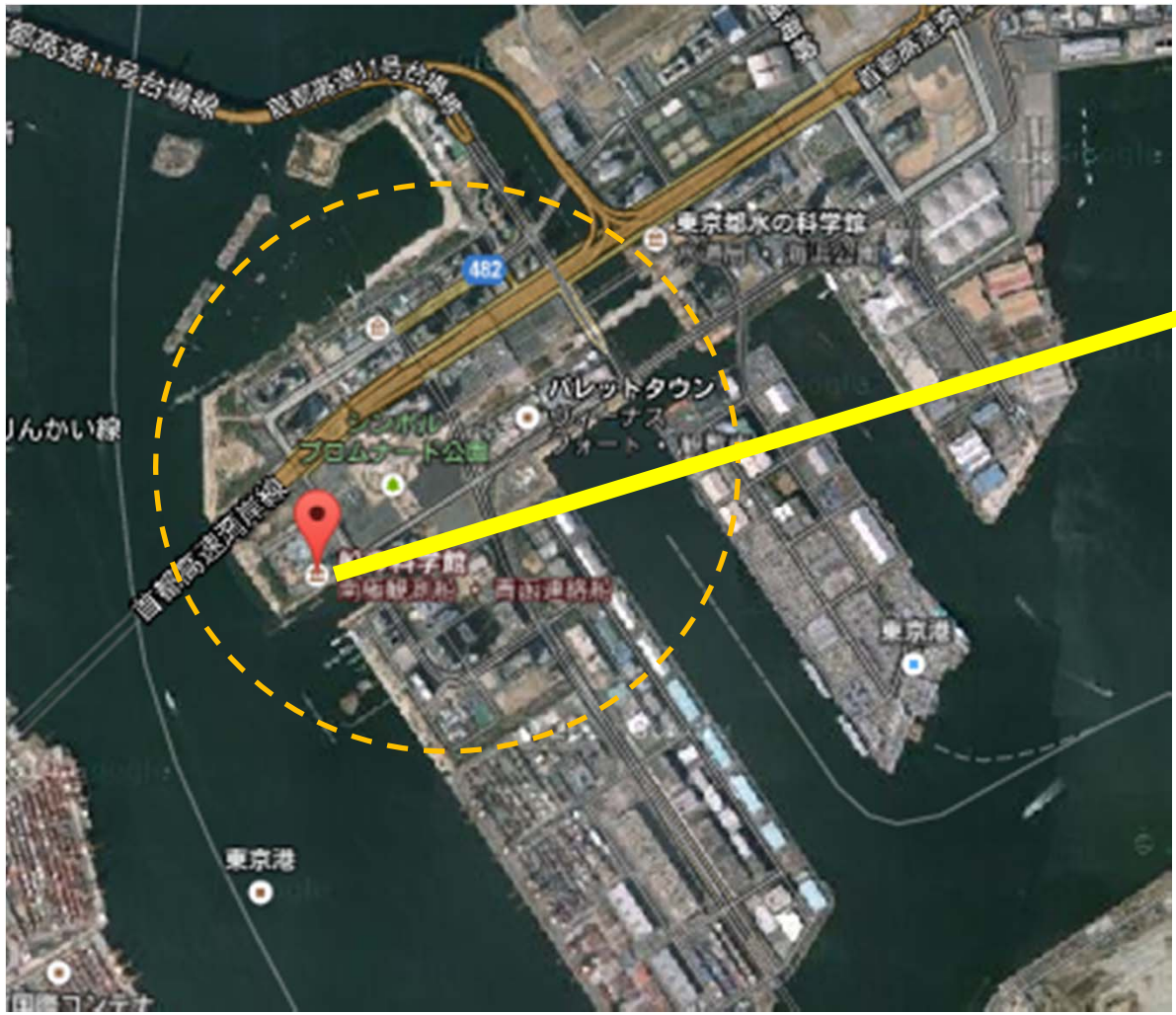
陸奥の模型



２．３ｍ　船の科学館　所有

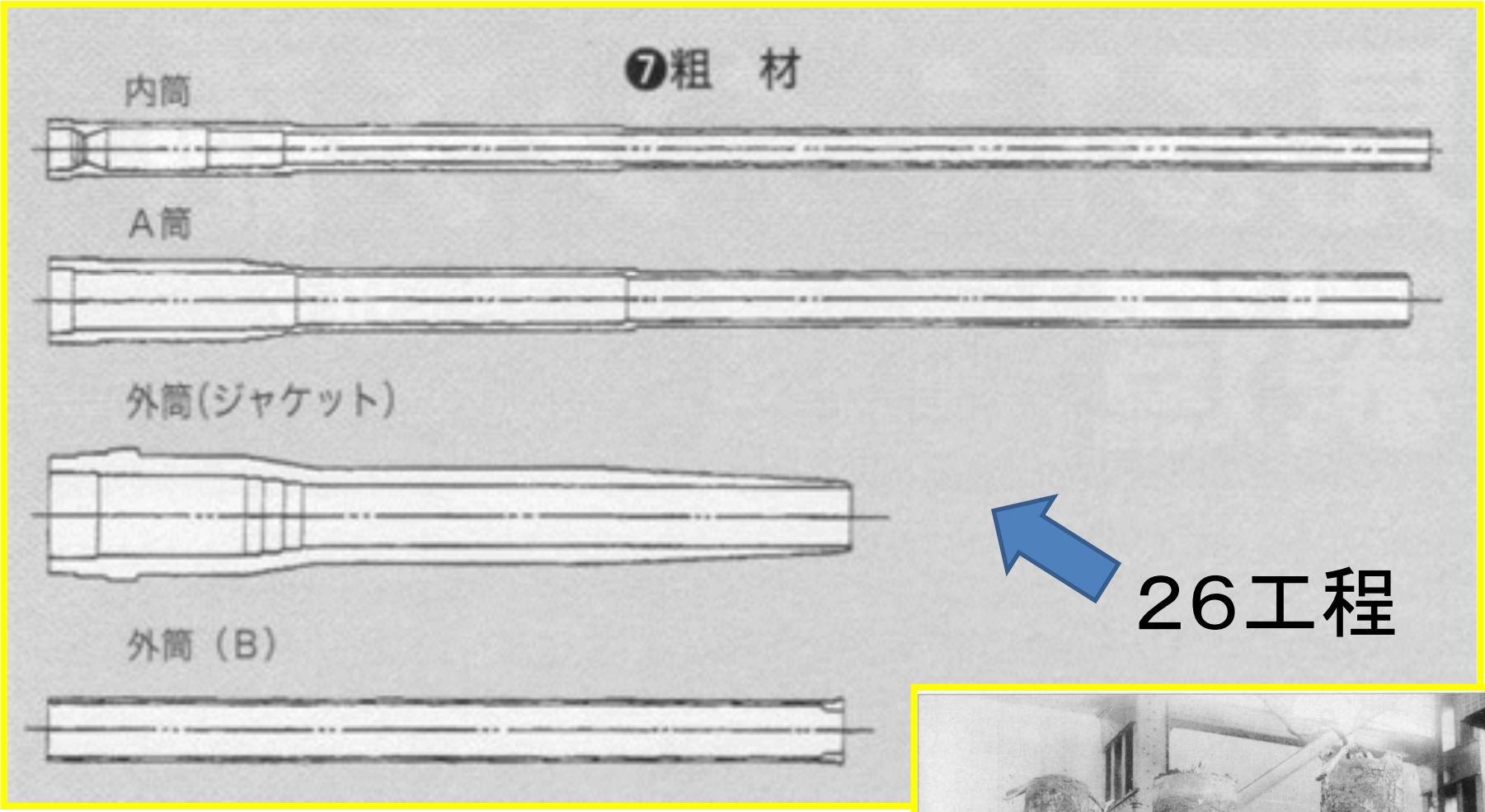
◆1921年（大正10年）
　長門型2番艦として横須賀海軍工廠で建造
◆1936年（昭和11年）
　横須賀海軍工廠で大改装工事完了（4番砲塔改装）
◆太平洋戦争で海軍主力艦として活躍するも、
　不幸にも昭和18年広島県柱島沖で爆沈
◆1971年（昭和46年）4番砲塔引き上げ
◆1974年（昭和49年）「船の科学館」展示、現在に至る
◆2020年のオリンピック・パラリンピックに向けてお台場
　付近の桟橋工事
◆「船の科学館」が所有する、「陸奥の主砲」
　2016年頃までの移設が求められている。

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けお台場地区の再開発

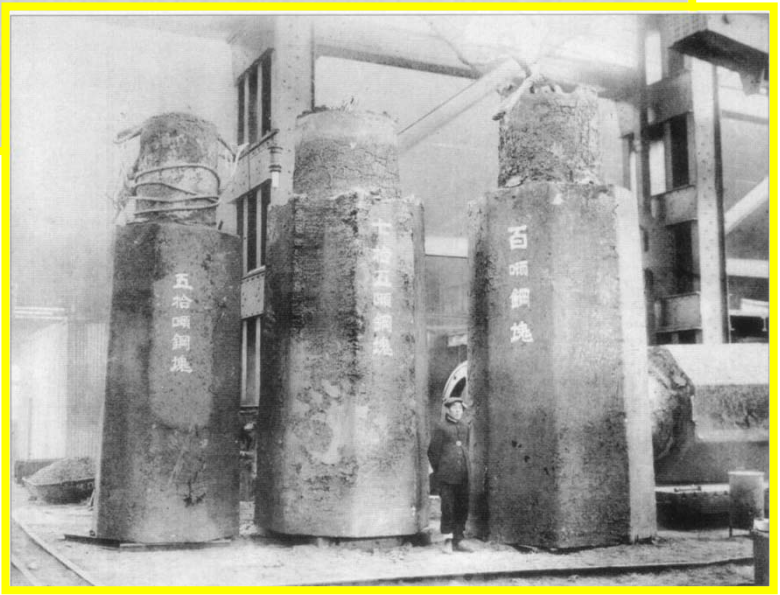


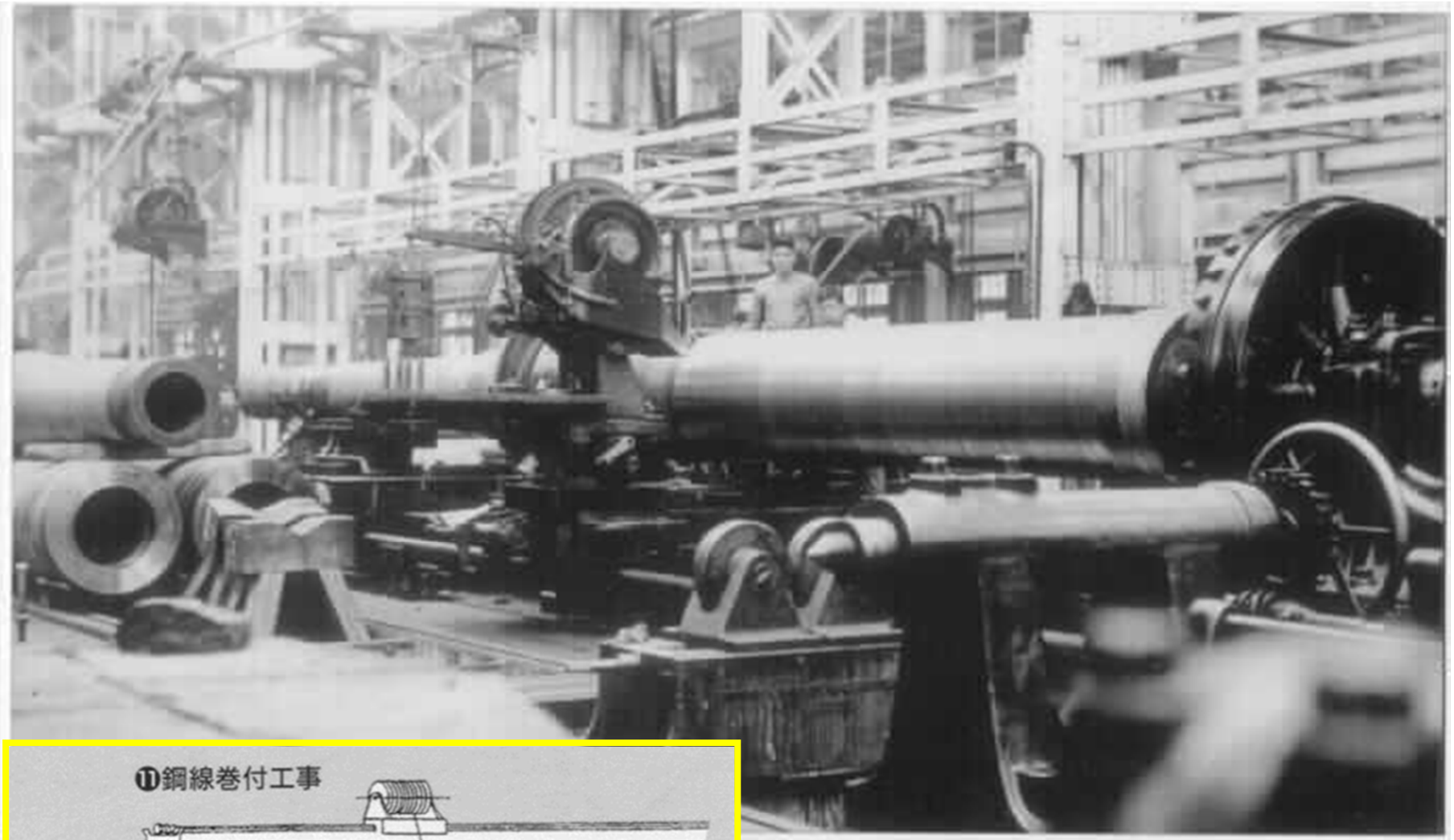
陸奥主砲 102ﾄﾝ 18.8m

	砲身長	口径	砲弾	射距離
45口径 40糎砲 （陸奥）	18m	40cm	1042Kg	36km
5インチ砲 （あしがら） （62口径）	7．9m	12．7cm	31．75kg	37km

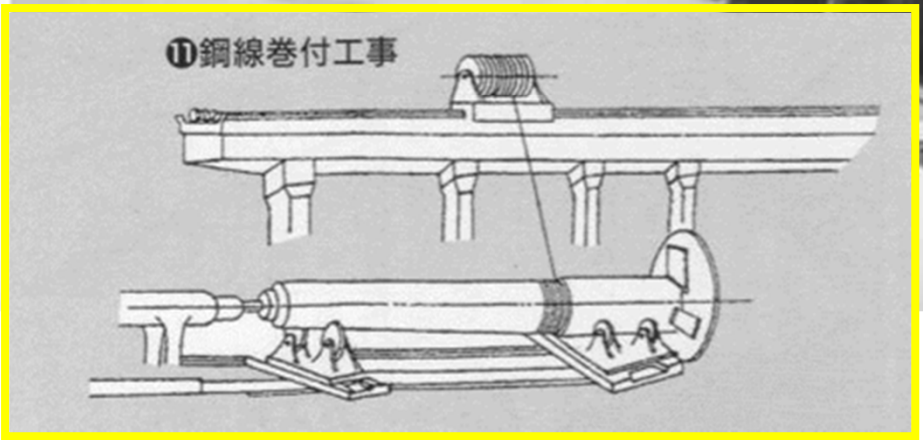


26工程





鋼線巻付作業



「日本の近代化を支えてきた横須賀」・「将来に向けて海洋立国日本を啓蒙する横須賀」 その発信基地としての横須賀、本事業はその一里塚

陸奥の会 立ち上げ （5月）	横須賀製鉄所起工150周年 （11月15日）	陸奥主砲 里帰り 80周年 （9月30日）
2014年	2015年	2016年
第一次署名・ 第二次署名・募金	移設場所の 工事	移動 設置